

哲学カフェ de ぎふ

せんしゅう

千秋まちかど文庫 通信



運営委員会発行(記録:安藤彰浩、編集:中川健史)(主宰:吉田千秋 090-7917-9602 yoshida0@sepia.ocn.ne.jp)

第182回哲学カフェ例会(2023.8.10)

《沖縄を再び戦場にさせないために・・ 緊迫した現地を訪ねた人に話を聞いて》

<問題提起> 主宰者:吉田千秋

・夏本番の8月、当然の様に暑いですが、世界情勢も熱くなっています。ウクライナ戦争も終結の見通しが全く見えていません。クラスター爆弾まで登場して、腹が立つことばかりです。そんな中で行われた8月6日の広島と8月9日の長崎における原爆投下の犠牲者追悼式典は、両市長による核抑止論の破綻に言及した内容の追悼演説を始め、全体に厳粛な雰囲気印象的で、二度と戦争をしない、起こさせないという決意を新たにさせるものでした。

・今日10日は、ボクが会長をしている岐阜平和美術展の初日でもありました。本日の例会は、こうした平和への願いを受け、トマホーク基地化が進む沖縄を扱います。その最先端の与那国島及び石垣島地方の状況について、現地を訪ね住民の人たちの話を聞いてこられた嵯峨崎聖子さんに、画像や動画を交えて語って頂き、意見交換したいと思います。

<報告> 嵯峨崎聖子さん (「岐阜・九条の会」事務局)

・6月7日から1週間の予定で、与那国島と石垣島を訪れました。ドキュメンタリー映画の監督をされている三上智恵さんのスピノフ映画を見たことがきっかけで、日本の西南端で今起きていることに興味を持ちました。それ以前は、南西諸島のミサイル配備に見られる沖縄の軍事要塞化に懸念を持ちながらも、心の何処かで遠いところの出来事に過ぎないと考えてしまっていたような気がします。同スピノフ映画を見て、どうしても与那国島、石垣島を訪ねたいという思いに駆られ、安価かつ効率的に同地を訪ねる方法を調べました。

・与那国島は日本の西南端にあって東京から2000



吉田 千秋さん

キロ離れていますが、台湾からは東に僅か110キロ程に位置しています。駐屯する自衛隊員及びその家族約250人を含め、人口1700人余りの小さな島です。与那国島に高校はなく、若者は中学を卒業すると島を離れてそのまま戻らないことが多いそうです。島の人たちは主に漁業、農業、観光業に従事しながら生活しています。お店は数件あるだけで、私たちの生活に当たり前のスーパーやコンビニやドラッグストアはありません。石垣島から来る週二便のフェリーで必要な品物が運ばれます。

・与那国島の平均収入は沖縄県全体で上から2番目になっていますが、これは駐屯する自衛隊員の平均収入650万円が、島全体の平均を押し上げてしまった結果で、自衛隊員を除いた住民の収入は200万円前後で、沖縄県全体で最も低い地域の一つになります。自衛隊配備は2016年3月、中学生も含めた住民投票の結果、賛成632反対445で決定しました。戦前から戦後にかけて与那国島は、台湾との交易が盛んで、台湾を往復する船が頻繁に出入りし、港のある久部良は人や物で溢れた国際的な町だったようです。その頃は島の人口も6000人を越えていたそうです。戦後、米



嵯峨崎 聖子さん

軍統治下で台湾との交易は次第に途絶えて行きました。

【動画を観ながら】

★オール沖縄の県議員と与那国島住民の意見交換会
(ミサイル配置をめぐる)

<住民の意見>

→もう与那国島が中国に取り囲まれているなどと言っている他府県の人たちがいる。

→ペロシ氏(注:米国連邦議会下院議長)が台湾訪問した時、それに反発して中国が軍事演習をしたこと、国がマスコミを煽って政権の軍拡の地ならしをした。

→今まるで有事が起こっているかのように煽り立てられていることが問題。与那国島についての報道状況が異常に見える。

→島の人たちの大きな誤解、有事で自衛隊は住民を守ってくれると思っている。

→誘致賛成派の人たちも、ミサイル配備のことは聞いていなかったと驚くが、声を上げられない。弾薬庫らしきものがあるが、しっかりした説明がない。しかし予算だけは付けられている。

→フトコロ症候群、懐具合で揺れ動く住民の心の問題。お金の力で、人間の精神構造を狂わせている。多くの人が島が好きで住んでいるが、捨て鉢になっている。

→全住民避難計画が出されたが、絵に描いた餅である。

→島の自治が崩壊している。町長が一人で決めて、住民は何も知らされないで、事が進んでいる。

<オール沖縄の議員>:難しいことが多いが、それを

解決するのが我々の仕事。沖縄県だけでなく、全国で取り組む必要がある。

<与那国町議会傍聴を傍聴して・・嵯峨崎>:ミサイル配備計画、比川港湾整備計画が議題でした。系数町長は東京へ何度も出向き、高市早苗氏や萩生田光一氏と面会を重ねているそうです

が、質問されても詳細は語りません。厳しい質問を受けて系数町長が大声を出す場面が何度かありました。町長は永田町に追従して軍拡が無ければ、皆が住める島で無くなる、だから島のために遣っていると開き直る発言をしていました。また町長は日本で初めてシェルターが設置されることを自慢していました。田里議員が反対住民の意見を取り上げると、系数氏は「町長は町民の声を聞くのが仕事ではない」と壇上で言いました。議会の最後に、住民説明会の開催が可決されましたが、系数氏は「遣らない」と駄々っ子のように振る舞っていました。町長の頭には民主主義はありません。町長は人口1700人の小さな島の独裁者に見えました。リコールの話が出ているようです。

★南牧場と自衛隊駐屯地

与那国島には3か所、馬の放牧場があります。南牧場は自衛隊駐屯地に隣接しています。自衛隊が来る前は全て南牧場だったので、駐屯地ができたことで馬の自由に動ける範囲がかなり狭くなりました。防衛省は地对空ミサイル部隊を配備するために、駐屯地の東に更に土地取得を計画していて、島の自然が今以上に失われることとなります。系数町長は7月23日に与那国島を訪れた松野官房長官にシェルター建設を含めた避難計画のための要望書を提出しました。沖縄の島々を戦場ににする政治ではなく、対話による外交で戦争を回避しなければならないと思います。

★石垣島

石垣島の人口は先月5万人を超えました。その内自衛隊員が570人余り。よく知られている様に、石垣島は一泊5万、10万もする豪華なホテルもあるリゾート



地でもあります。石垣市は何でも揃っている都会です。飲食店も沢山、夜の歓楽街もあります。地対空迎撃ミサイルPAC3は基地内ではなく、大型フェリーが入る埠頭に隣接した場所に配置されていました。PAC3など周辺で撮影をしていると小銃を持った自衛隊員の視線が気になります。武器を持った人間に対峙するのは初めてで、恐怖感を覚えました。すぐ近くの海岸には海水浴を楽しむ家族連れが沢山いて、対照的な光景に違和感を覚えました。

★戦争マラリア

訪問最後の日、八重山平和祈念館を訪れました。米軍は戦争中石垣島に上陸することはなかったのですが、駐在する日本軍に対する空襲や艦砲射撃があったそうです。日本軍は、米軍の捕虜となった住民から情報が漏れることを嫌って、住民の多くをマラリアの感染が疑われる地域へむりやり疎開させました。そのため多くの人が感染と食糧難で亡くなりました。日本軍は対マラリアのワクチンを持っていましたが、住民は接種の対象外でした。こうして亡くなった

人たちは戦争マラリアの犠牲者と呼ばれています。

石垣では自衛隊石垣駐屯地前のスタンディングに参加しました。石垣市は賛否を問う住民投票がなされないまま基地建設が行われ、2023年3月に陸上自衛隊石垣駐屯地が開設しました。スタンディングには、与那国の意見交換会でお会いしたオール沖縄与党全会派の議員さんたちも参加されていて、平和的外交で絶対に戦争させないというスピーチをされていました。自衛隊員もスタンディングの様子を撮影していました。その模様は翌日の赤旗に掲載され、「岐阜・九条の会からも参加された」と紹介されました。

今回の訪問で沖縄の人たちは政治に翻弄されていると強く感じました。



<意見交流>

*自衛隊誘致を住民投票で認めたといっても、事態は明らかに町民の多数が知らされていたものと違う方向に発展している。住民投票を行い、島の住民の意向をもう一度しっかり確かめる必要がある。町民の反対意見を省みない町長の行動は、憲法違反と言っても過言ではない。

*系数町長は元々農家の出身で、気象庁の職員を経て、与那国町議会の議員となった。議員時代に台湾との交流を進めて、議長を務めた後、2017年町長選に立候補したが落選、2021年再び立候補し勝って町長となった。元々自民党寄りだった。

*町長は本当に台湾有事を信じているのか。台湾有事で与那国島が空から攻撃されるということなのか。何のためのミサイル配備なのかよく分からない。

*町長が台湾有事を心配している印象は受けない。多くの住民が本当に心配しているのに町長の対応は不誠実である。

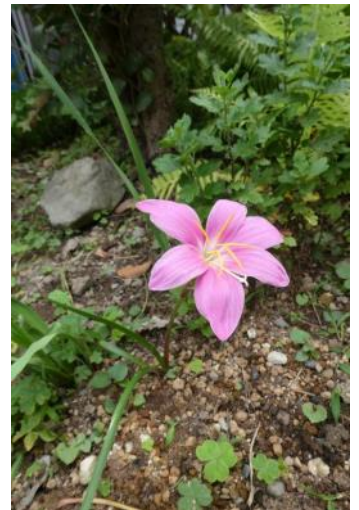
*与那国町議会の議員は何人いるのか。

(回答*10人)

*沖縄はどこも観光地という印象がある。与那国島はどうか。石垣島も与那国島と同じ様に自衛隊はいなかった。自衛隊受け入れに関して、住民の意見は分かっていた。住民投票を求める声もあったが、住民に法的な請求権はないとして、市長が自衛隊の受け入れを決定した。自衛隊の受け入れが決まった頃、住民の大半は危機意識を持っていなかった。

*現町長系数氏はでたらめ過ぎる。リコールが相應しい。それにしても沖縄はひどい状況になっていて、がく然とさせられる。一体どうすればいいのか。

*沖縄は大きな産業もなく、外からの経済支援無しにやって行けない地域である。日本政府はこれまで



も利益誘導で住民を動かそうとして来た。今回もお金が動いていると言われる。

* 与那国島は大勢の人が外から観光目的で訪れる様な島なのか。

* 与那国は小さな島で石垣と比べ開発は遅れている。先月(7月)、台湾立法院の議長を含む80人の議員団が与那国島を訪れた。議員団の訪問は、明らかに花蓮市と交わした国際交流に関する議定書の主旨に沿ったものではなかった。訪問団はそこで日華議員懇談会の古屋会長を含む8人の国会議員と合っている。なぜ台湾と日本の政治家が与那国島で懇談する必要があるのか。

* 始めから国の目的は与那国島を軍事基地化することだった。住民の意思がどうかは二次的な問題だった。国境を越えた地域間交流はカモフラージュだった。

* 金の問題が大きい。経済力の乏しい地方へ行けば行くほど、「フトコロ症候群」は深刻になる。住民の意思がそれぞれの懐の入るお金によって歪められる。

* 与那国島や石垣島で起きている問題が日本全体の問題になっていない。そのこと自体がまた問題である。議論すべき問題は沢山ある。日本の南西の島々で起きていることは国民全体で共有されるべき問題である。

* 根本的な問題は、今日本政府が米国と共に大軍拡を進めようとしていることである。社会の上から下まで多くの様々な人たちが、軍事絡みで懐具合をよくするという考えに振り回されている。個人が国家に絡み取られてしまっている状況がおきている。

* 沖縄で起きていることは褒められる様な事でないことは明らかである。元々、社会の仕組みがITなど先端産業を始め、大企業が儲けて、下々の者はそのおこぼれに与るという形になっている。



* 冷戦時代も、ソ連や中共の脅威が強調され軍拡が行われた。今、ウクライナ戦争で、戦争の脅威が叫ばれている。若者に平和の重要性を伝える努力が大事である。

* 民間レベルで沖縄の人たちと繋がっていかねばならない。国はいつも金で住民の行動を導こうとする。国民は自衛隊の誘致で生活が豊かになることを期待する。軍事で平和を守ることはできない。為政者に憲法を守らせるよう声を上げて行かなければならない。

* 近年、自衛隊の基地周辺の汚染が明るみに出て、生活の安全を脅かす大きな問題になっている。2010年各務原で基準値を超える有害物質が検出され、周辺地域の環境汚染の事実が露見した。政府、防衛省から住民は事実関係を十分知らされていない。市も何もしていない。住民は本当に怒っている。

* 同じ様な基地周辺の汚染が全国で起きている。共同して真相究明を求めて運動する必要がある。その他にも色々な問題が起きている。政府の対応はいつも後手に回り、岸田政権に対する不信感も強まっている。

* 米国は中国との対立の背後で、グローバルな問題の解決において必要な協力の道を模索している。小さな問題は大きな問題の陰に隠れがちであるが、協力できることで協力して信頼関係を築くことも重要ではないか。日本政府は無策すぎる。

* 「気が付いたら戦争になっていた」ということでは困る。何をすべきか、議論の場を作ってしっかり話をする必要はある。



<意見交流の最後に>

嵯峨崎さん:皆自分の生活で手一杯で、あまり余裕はないかもしれませんが。それでも関心を持って地元の人たちと手を携えてやって行く、とにかく出来ることをしたいと思います。沖縄の外の私たちが一緒になって反対の声を上げれば、政府も無視できない大きな抵抗力になるはずです。

主宰者:沖縄への関心を持ち続け、自分の問題として考えることが重要ですね。今日は、現地まで出かけて当事者の声を取材された嵯峨崎さんの生々しい体験を伺うことが出来ました。沖縄の軍事基地化が進められている実態を知る貴重なきっかけを与えて頂いたと思います。嵯峨崎さんありがとうございました。。

<例会及び「通信」の感想、意見、便りなどか>

○<心配事がいっぱいです>

いつも「哲学カフェ通信」有難うございます。沖縄を再び戦場にさせないためにどうしたら良いのか。。

今の戦争の攻撃方法は第二次世界大戦の時と比べてどのように変わっているのだろうか？ 最近だと無人の偵察機にドローンによる攻撃とか宇宙から人工衛星を使って監視するとか、またはそれ以外にも宇宙からできることが有るのかしら。

アメリカと共同で迎撃ミサイルの開発をするとの話もあるし。。日本に落とした原爆より威力が小さく、もう少し使いやすいと言ってよいのか？ 台湾が中国になるとアジアの経済は飛躍的に伸びるのでしょうか？

海水温もどんどん上がっていて地球が先に壊れてしまいそうでこちらもとても心配です。

(takako ranntyu)

○<言い忘れた意見>

今、急激に進められている沖縄県の自衛隊基地化、シエルター化問題の大元は2015年に成立した新安保法制、いわゆる戦争法にあります。この戦争法の肝は「現憲法下でも集団的自衛権の行使は合憲」としたところにあります。つまり、米国の起こす戦争に日本も参戦するということです。

そして、その具体化が昨冬閣議決定さ



れ、先の国会で成立した「安保3文書」なのです。この「安保3文書」には「敵基地攻撃能力保有」と「防衛費倍増」という2つの肝があります。この敵基地攻撃能力保有の「日本が相手国から攻撃される前に先制攻撃も出来る」としたのは、正に集団的自衛権の速やかな行使(台湾有事が起こり、米国から参戦要請があれば即時対応)のためだと思えます。

先の国会で「これが現実になれば全面戦争になるのでは？」という質問に浜田防衛相はそれを否定しませんでした。正に日本は「新しい戦前」を迎えているのです。
(三戸光則)

○<与那国の状況は2年前のドンパス地域>

今回の嵯峨崎聖子さんの与那国島と石垣島の現況についてのお話をお聞きして、特に与那国島では、かなりの緊迫した状態であることに驚いた。石垣島においても、観光客で賑わっているとはいえ、海水浴に興じる本土からの家族連れ観光客のすぐ横にPAC3が配備されて自衛隊の警備下にあるという。ウクライナ侵攻でのドンパス地域もおそらく2年前はこのような状況にあったのかもしれないと考えると





身震いする。

ロシアの侵攻以降、ウクライナの若者が国家総動員令のもとで戦地に駆り出され、すでに数多くの兵士が戦死し、一般の子供、女性も命を落としており、日本人もけして他人事ではない。

さりとて、ミサイルで威嚇する北朝鮮は当然のこと、中国も経済力を身につけて容易に台湾へのスタンスを変えることは考えられないし、ロシアに至っては明日にでも核を使用するかもしれない状況下では、これらの国々に対話でもって今後の進展を期待できるとは考えられない。手詰まり状態でなす術がないと言わざるを得ない。(ryosa)

○<日米地位協定の全面改訂を！>

沖縄は第二次大戦の敗戦の間際のころから、日本人全体が受け止めるべき受難を代わりに背負わされてしまった。米軍上陸時の犠牲、占領解除の時期のずれ、沖縄の日本復帰後もアメリカ軍使用用地の70%は沖縄にあり、沖縄の面積の約15%占めている。これら基地用地を部分的に返還される約束がされましたが、いまだ実現していません。

基地が撤去されることが本課題ですが、米軍基地の特権を容認している地位協定を全面的に改訂することが望ましい。これは沖縄県に住む人だけの問題ではなく、日本人全体の問題であり、自分のこととして捉える必要があるだろう。(アダム・スミス)

○<東アジア全体の安全保障を！>

今回の嵯峨崎さんのお話で、自衛隊基地の建設やミサイル設置が進む石垣島や与那国島の緊迫した情勢がよく判った。特に貧しい島民を札束で買収して賛成派に取り込み、戦争の前線に立たされる不安から反対の声を挙げている人々を黙らせようとしている非道に、憤りを感じた。

背景に台湾有事などの米中対立があるのは明白だが、同じことがフィリピンの北部3箇所でも米軍基地の新設と言う形で起きようとしている。勿論台湾内でも似通った動きが起こっているだろう。

また、「戦争する覚悟！」などといった勇ましい言葉を吐く政治家たちや軍事に群がる産業などの動きとも連動しているだろう。

東アジア全体で、平和を求め緊張を緩和させる市民・住民の繋がりやASEANタイプの国際連携が求められる。戦争をさせない人々の石垣を！

(フィリピンウオッチャー)

<この一本> 監督:宮崎 駿『君たちはどう生きるか』 2023年7月公開

この夏公開されたスタジオジブリ、宮崎駿監督の最新作である。

ああ 面白かった。でも訳が分からんところがいっぱいだ。これが見終わった最初の感想。声優陣の豪華さをエンドロールを見て知ったが、だれがどの役かがわからないももどかしかった。戦前の日本を舞台に、生と死が一体となった世界に入り込んだ、少年真人のファンタジー映画である。もう長編映画は造らないと自らの引退宣言を覆して作られた14作目の作品で。

これほどまでも賛否が分かれている作品もジブリでは珍しい。今まで宮崎作品にあった愉快さは影をひそめ、グロテスクな表現に生理的な嫌悪感を抱いた人も多いであろう。(ナウシカ・ラピユタから引き継

がれている爽快な飛翔シーンは影をひそめ、もののけ姫にも見られたリアルなグロテスクさが際立っている。)ジブリの反戦映画といえ、高畑勲さんの「火垂るの墓」が名高いが、宮崎駿さん流の反戦映画でもある。(前作の「風立ちぬ」はゼロ戦開発がモチーフということで、私は観ていない)。

サギ男は何者か？大叔父の造ろうとしたものと13個の積み木の意味しているものは？ワラワラとイン



コ、色々な疑問や考えたことを誰かと語り合いたい、そしてもう一度じっくり観たい、そう感じさせる映画だ。

本当に矛盾に満ちた、この世界で、「仲間・友だちとともに生きる」「過去は変えられないけれど、未来は造ることができる」とのメッセージ、うまく子どもたちに届くといいのになあ。エンディングに流れる、米津玄師の歌の一節「風を受け走り出す、瓦礫を超え

ていく この道の行く先に 誰かが待っている」と。現在発売中の、吉野源三郎さんの「君たちはどう生きるか」(岩波文庫)のカバー裏表紙の言葉「君自身が心から感じたことや、しみじみと心を動かされたことを、くれぐれも大切にしないではいけない」。同じことを、宮崎駿さんも伝えようとしたと思う。さあぼくはどう生きるのだ。(足立哲男)

<8月「戦争と平和を考える」放送番組を観て>

毎年8月には、NHK、民放が「平和と戦争を考える」特集番組を放送する。

今年は岸田内閣の「安保大転換」で、戦争への不安、危機が後押ししたのか、かなり多くの特集が組まれた。

注目した番組観では、NHKで「原爆ウラン争奪戦 1938-2023 知られざる攻防」、「新・ドキュメント 太平洋戦争 1943 日米憎しみの連鎖」(前・後編)、「Z世代と考える戦争 若者のギモンX戦争」などがあつた。だが、豊富な記録の発掘に目を見張るものもあつたが、全体として現在の状況に真正面から向き合い、考えさせるインパクトは少ないように感じた。

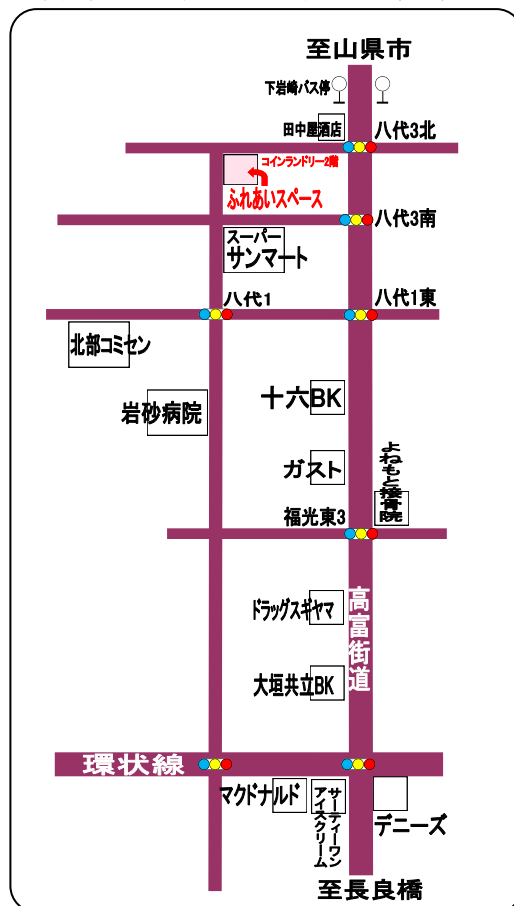
それに比して民放各社の特集には、あの戦争はどういうものであつたかに鋭く迫る番組がいくつかあつた。「でくのぼうー戦争とPTSD」(山形放送制作)、「変わりゆく自衛隊の実像」(日本テレビ制作)などあるが、中でも最も秀逸と思われたのは、「僕たちは戦争を知らないー戦禍を生きた女性たち」(朝日テ

レビ制作)だつた。

これは戦争を知らない若者4名(菊池風磨、中間淳太、松村北斗、阿部亮平)が、戦場に行かなかった女性たちの壮絶な闘いと、戦後にも続く深い悲しみを聞き、自分たちのありのままの気持ちを伝えます。昨年反響の大きかつた番組の続編だが、語り手と聞き手、双方の真実の言葉に深くうたれました。ぜひ、ネットで探して観てほしい番組です。(Sensyu)

例会会場案内

例会への事前申し込みは不要です



哲学カフェ 第29期(2023年前半)例会予定 *毎月第2木曜日、午後7:00~9:00

ふれあいスペース⇒コロナ警報で中止の場合あり、テーマも変更あります。連絡下さい。

<p>第182回 8月10日(木)</p>	<p>「沖縄を再び戦場にさせないために・・ 緊迫した現地を訪ねた人に話を聞いて」 *西南諸島は「台湾海峡有事」を煽る政府によって、ミサイル基地化を強行推進されています。 *だが島民の反発も急増。そこに参加された嵯峨崎聖子さんの話を聞いて意見交換します。</p>
<p>第183回 9月14日(木)</p>	<p>「世界125位、なぜ男女平等は進まないのか？」 *今年のWEFの発表では日本はまたも下がって、146カ国中の125位。東アジアでは最下位。 *特に政治と経済の分野での遅れがひどい。何が問題で、どうすれば良くなるのか考えてみたい。</p>
<p>第184回 10月12日(木)</p>	<p>「ファクトとフェイク、あなたはどうか見分けますか？」 *発信される情報が偽ものであったのは、古今東西おびただしい。今は情報が大量でかつ巧妙である。 *ウクライナ戦況、原発事故汚染水、コロナワクチン等。真偽をどう判別するのか？</p>
<p>第185回 11月9日(木)</p>	<p>「あらためて私たちの家族観を問い直してみよう。」 *家族は大切、だがその「家族」像は古いままで、制度上も「世帯」「家族」本位である。 *いまこそ多様な家族形態を見つめ、「個人の尊重」を軸にした、新たな家族観を創りださねば・・。</p>

哲学カフェの運営資金の協力も、よろしくお願ひします。

口座記号・口座番号 00810 1 142912

加入者名 哲学カフェ de ぎふ、千秋まちかど文庫

「哲学カフェ de ぎふ」ホームページ 毎回更新中 !!

<http://tetsugakucafegifu.jimdo.com/>

右のQRコードをスマホなどで読み取ると、「哲学カフェ de ぎふ」のホームページが開きます。ぜひ閲覧願ひます。友人・知人に拡散いただければ幸いです。



わいわいがやがや



アラカルト

★7月末私の校区にも雹が降った。丁度離れた場所にいたが「車のガラスが割れそうで怖かった」と聞いて畑へ。幸いハウスは無事。だが小屋の屋根の波板に10個ほどの穴、里芋やカボチャの葉も穴だらけ。収穫前のスイカが7個も割れたのも痛手だった。

★調べてみると、雹は直径が5ミリ以上の氷塊が降ることで、玉子大や拳大のものも時にあるようだ。大正時代には群馬でカボチャ大が降って人が亡くなり農作物に大きな被害出たとある。大きなのが時速100キロの速さで落ちれば、空襲に近い。

★更にネットに当たると、車の屋根やボンネットの凹みや傷は車両保険で補償とか、

作物被害には県によって一部修復費の補助が出るようだ。近所にはカーポートを破られた家が数家あったが、それには対応してくれる制度はないのだろうか？

★損害補償と言え、Bモーターの「ゴルフボールで傷つけて」の自動車保険に対する不正請求事件が昨今話題だ。少し前はコロナによる休業補償の不正請求摘発が沢山出たことがあった。こうしたコンプライアンス違反は、当事者には“バレなければ得”なのだろうが、回りまわってみんなの負担になる。

★国民の負担と言え、昨年末防衛三文書改訂で決まったという、実態も良く解らない防衛費増=5年で43兆円。当面増税はないとつつ財政的裏付けは未だない。これBモーター同様の詐欺ではないか！ 雹への恨みから、八つ当たりと思われるてもこまるが・・・。
 (大橋健司)